

業務「効率化」のはずが負担増も

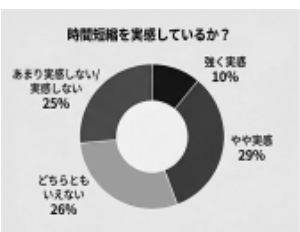
——保育ICT、647人調査で見た実態



記者会見する東京自治労連保育部会

東京自治労連保育部会は6月12日、厚生労働省記者会で会見し、都内公立保育園で保育ICTを利用する保育者647人を対象にしたアンケート調査の結果を発表しました。調査からは、連絡帳や日誌作成などで一定の効率化がみられる一方、時短を実感する保育者は約4割にとどまり、端末不足や入力作業による新たな負担も明らかになりました。さらに、保育者の健康への影響や、子どものデータ管理など、ICTに伴う新たな課題も浮かび上がりました。

時短実感は約4割
保育ICTは、登降園管理や連絡帳、健康記録、保育日誌、指導計画などをデジタル化する保育業務支援システムです。国は、保育者の事務負担を軽減し、子どもと向き合



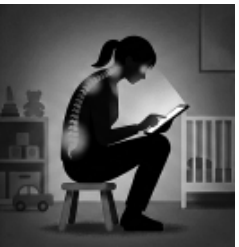
う時間を確保することなどを掲げ、導入を進めてきました。調査では、ICT導入後、1日の事務作業時間が「1時間未満」と回答した保育者が12・2ポイント増加。連絡帳や日誌、登降園管理などで業務が改善したとの評価もありました。

しかし、「事務作業の時間が短縮された」と実感する保育者は約4割にとどまりました。一定の時間短縮効果がありながら、現場の負担軽減として十分に実感されていません。

背景には、端末不足や通信環境の問題があります。調査した9区のうち2区では、約9割が「端末が足りない」と回答。複数の保育者が端末を共有するため「順番待ち」が発生し、「手書きより時間がかかる」「入力した内容が消えてやり直しになる」との声も寄せられました。効率化のために導入したICTが、環境整備の不足によって新たな非効率を生み出している実態が明らかになりました。

ICTによる健康問題
今回の調査で特徴的だったのが、ICT利用による保育者の心身への影響です。保育現場は一般のオフィスとは異なります。保育者は、子どもが眠る午睡中

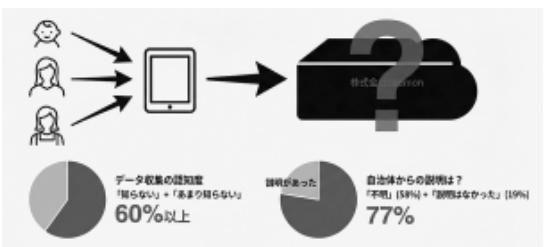
の薄暗い保育室で、子ども用の椅子に座ったり、床に座って膝の上で端末を操作しています。



調査では、眼精疲労や首、肩、腰などへの身体的負担を訴える声が多く寄せられました。特に50代では眼精疲労が目立ち、情報機器作業に関する健康診断について約6割が「受けたい」と回答しました。

子どものデータは誰のものか

調査では「データ主権」の問題も明らかになりました。保育ICTには、子どもの健康状態や発達、食事、睡眠、保護者との連絡内容、写真など膨大な情報が蓄積されます。これまで園や自



か6・5%でした。保育者は日々、子どもの大切な情報を入力しています。しかし、そのデータがどこに保存され、誰が管理し、どのように利用されるのか、十分な説明を受けないまま利用している実態があります。

根本問題は「人員不足」

調査では、保育ICTが一部の業務改善に役立っていることも明らかになっています。問題は、ICTを導入すれば、保育現場の負担が軽減されるという考え

方です。慢性的な人員不足のもとでは、保育者は子どもを見守りながら端末への入力も行わなければならない。端末や通信環境が不十分なら、ICTそのものが新たな負担になります。

しかし、データ収集について自治体から「説明はなかった」「不明」とした回答は77%。利用規約を「すべて読んだ」保育者はわずか。保育者はわず

【2面に続く】

仕事の原点 見つめる場

第18回
地方自治研究全国集会 in 広島

平和 語ろう!いかそう!憲法と地方自治

人権 共同の力で取りもどそう

公共

10月3日(土)~10月4日(日)

広島市内3会場
(JMSアステールプラザ / 広島市文化交流会館 / 広島国際会議場)

住民のための「公共」は守られているか……。自治体DXや民営化の波が押し寄せる中、公務のあり方に葛藤を抱える職員は少なくありません。東京自治労連は、10月3〜4日に広島市で開かれる「第18回地方自治研究全国集会」への参加者を募集しています。同集会は「平和・人権・公共を取りもどす」を掲げ、憲法と地方自治の視点から社会の未来を議論する場です。福祉や防



ご一用
研リHP
治内
自案フ
QR

野風俗

6月23日、沖縄県糸満市の平和祈念公園で沖縄全戦没者追悼式が行われ、豊見城市立豊崎中学校2年生の亀谷琉奈さんが、「生きた」と題した証と題した「平和の詩」を朗読しました。▼詩には、沖縄戦を生き延びた亀谷さんの曾祖母の体験と、その記憶を受け継ぎ、平和な未来へつないでいくこととする思いが込められています。▼沖縄戦当時、まだ若かった曾祖母は、爆撃が続くなかを必死に逃げ、生き延びました。その右足には、戦争の恐怖のなかで自ら傷つけた痕が、今も残っているといいます。亀谷さんは、戦争は人の命や体だけでなく、心をも傷つけ、家族や友人と過ごすかけがえのない日常を奪うものだと訴えます。▼そして、曾祖母が戦争を生き延びたからこそ、今の自分があることに思いを寄せ、その右足に残された傷を「生きたい」と強く願った証」と表現しました。▼戦後81年を迎え、沖縄戦を直接体験した人たちは少なくなっています。しかし、戦争の記憶と、平和を願う思いを次の世代へ受け継いでいくことの大切さは変わりません。▼「平和は当たり前じゃない」。この言葉を私たち一人ひとりが受け止め、戦争を二度と繰り返さないために何ができるのかを考えていくことが求められています。▼「平和の詩」の全文にも、ぜひ触れてみてください。

当局の「財政が厳しい」は本当？

交渉で勝つための財政分析講座



講師 野中 郁江
東京自治問題研究所理事
(明治大学名誉教授)

講座では、2026年3月の清瀬市長選挙を紹介。清瀬市では長年、「財政が

「財政分析」というと難しく感じますが、まず見るのは五つの金額です。野中氏は、財政分析の基本として、①歳入と歳出の推移、②歳入と歳出の差額と実質収支、③歳入・歳出の内訳、④地方債、⑤基金を挙げました。

東京自治労連自治研推進委員会は6月26日、「やさしい財政分析講座」の第1回を開催しました。講師の野中郁江・東京自治問題研究所理事は、2026年3月の清瀬市長選挙で財政分析が果たした役割を紹介しながら、自治体財政を見る基本的な方法を解説。「財政分析のゴールは、分析することではなく、組合ニュースや要求づくり、団体交渉に生かすこと」と強調しました。

「財政分析」というと難しく感じますが、まず見るのは五つの金額です。野中氏は、財政分析の基本として、①歳入と歳出の推移、②歳入と歳出の差額と実質収支、③歳入・歳出の内訳、④地方債、⑤基金を挙げました。

野中氏は、地方債についても「金額だけで判断してはいけない」と指摘。地方債には、本来、国が地方交

付税として交付すべき財源を自治体が代わって借り入れた「臨時財政対策債」が含まれています。地方債の総額だけでなく、その中身や長期的な推移を見ることが重要です。

財政分析によって、清瀬市が「財政危機で何もできない自治体」ではないことを知った市民には「安心」が生まれました。このことが、財源がないから仕方がない」と萎縮せず、必要な住民要求を掲げる土台になりました。

野中氏は、財政分析を専門家に任せるのではなく、複数の仲間と取り組むこと

すべての労働者の生活改善につながる勧告を！

人事院関東事務局へ要請

自治労連関東甲越ブロック協議会（議長・矢吹東京自治労連委員長）は6月29日、8月に出される人事院勧告に向けて、人事院関東事務局に各都県組織の代表

13人で、「要請書」の提出を行いました。働き方を変えていくこと。働き続けられる職場づくりは、引き続き重要な課題です。また、先日程で成立した、予備自衛官の兼業特例法については、

は深刻である。公務員の働き方を変えていくこと。働き続けられる職場づくりは、引き続き重要な課題です。また、先日程で成立した、予備自衛官の兼業特例法については、

自治体とその職員に、大きな混乱をもたらすだけである」と強調しました。その後、限られた時間の中で、要請書の中身を踏まえ各都県代表者が発言しました。



人事院関東事務局へ要請する（右）矢吹委員長

東京の代表として石澤書記長は、再任用職員への一時金支給月数の改善について、「特別区の人事委員会へ求めている、国公準拠を理由に進展がみられない。国・人事院が正しく判断してほしい」と、家賃高騰の中で、住宅手当を別原資によって引き上げる勧告を行うこと」などを強く求めました。

墨田区職労

「新入職員歓迎のつどい」
若い実行委員の方々が準備を進め、総勢82人が参加！

墨田区職労では、毎年「新入職員歓迎のつどい」を開催しています。今年5月29日に墨田区役所近隣のピアホールで開催し、新入職員をはじめ総勢82人が参加しました。



新入職員歓迎のつどい

衛生局支部

新人歓迎クルージングを開催しました

衛生局支部は7月4日、新規加入組合員を含む33人が参加して、日の出埠頭から出発する東京湾サンセットクルージング（2時間コース）で海から見た今の東京を堪能しつつ、個室貸切りでbuffet形式のおいしい料理とクイズ大会で大いに盛り上がり、先輩組合員との交流の場となり、楽しい会となりました。



衛生局支部は7月4日、新規加入組合員を含む33人が参加して、日の出埠頭から出発する東京湾サンセットクルージング（2時間コース）で海から見た今の東京を堪能しつつ、個室貸切りでbuffet形式のおいしい料理とクイズ大会で大いに盛り上がり、先輩組合員との交流の場となり、楽しい会となりました。

目黒区職労

最古参の車両に会う
都電貸し切りツアー

4月19日14時、現 在、がうたた寝る横を通ったのりくエストに、最 緒に走ったり、貴重であり、古参の7007号車。一部マニアの歓喜の中、早稲田停留所を目黒区職労貸し切り電車が、定刻通り出発しました。



都電と一緒に写真を撮る参加者の皆さん

参加者総勢26人、その内、お子さん8人。今後も、目黒区職労「鉄道友の会」は、誰もが楽しめる「鉄分」いっぱい企画を考えていきます。

先月号433号でクロスワードパズル当選者の氏名に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

憲法宣伝行動用の横断幕ができました



「日本を『戦争する国』にする憲法改悪許さない」
毎月、各単組が各区各市で 断幕が完成しました。6月9日順次実施している「憲法をい 日の後楽園駅前宣伝でお披露 出す自治体労働者東京連会」 目し、目を引く宣伝となりま した。

「折り鶴プロジェクト」

みなさんの平和への思いを
ヒロシマとナガサキに届けます

自治労連が全国的に取り組んだ「折り鶴プロジェクト」に、東京自治労連でも多くの組合員の協力により、千羽鶴が出来上がりました。ありがとうございます。この折り鶴は、原爆の犠牲となった広島市と長崎市の職員の方々への慰霊献花行動で捧げます。8月4日～6日に広島で開催される原水爆禁止2026世界大会に「東京自治労連代表団」届けます。



東京自治労連代表団の石澤団 長（右）と國友中執